

(様式1)

自己評価票

作成日 平成28年6月15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890200074		
法人名	社会福祉法人 秀和会		
事業所名	グループホーム さくらんぼ	ユニット名	山の町
所在地	〒316-0002 茨城県日立市桜川町1-1-1		
自己評価作成日	平成27年11月18日	評価結果 市町村受理日	平成28年6月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=rue&JigyosyoCd=0890200074-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年1月27日	評価機関 決済日	平成28年6月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>医療と福祉の複合施設である「ウェルニック・プラザ」の3階に当ホームがあり、1階にクリニック、2階に病棟、4階に特養さくら館サテライトがあり連携して入居者の生活を支えています。入居されている方が今までの生活を継続していけるように、住みやすい環境作り、生活に楽しみを感じられる暮らし、個々に合わせたケアを事業所全体で取り組んでいます。家庭の雰囲気大切にしているので、食事や買い物など日常的な外出の他にも、四季折々の行事を計画して入居者に季節を感じてもらえるようにしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は「福祉、介護」のウェルフェアと、「医療」のクリニックの一体化を目指した、4階建てウェルニック・プラザの3階にあり、1階のクリニックの医師による週1回の訪問診療や、4階の特別養護老人ホームの看護師による毎日の健康管理は、利用者や家族等の安心につながっている。</p> <p>職員は利用者一人ひとりの意向にそったケアを心がけるとともに、気が付いたことや利用者の意向、希望に耳を傾け、それらを記録に残して職員で共有し、実現するよう努めているほか、施設長と管理者、職員は家族等の意見や気持ちを大切に、家族等の来訪時には利用者の状況を伝え、よく話を聴くことを心がけている。</p>
--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に「地域」の使用し理念を掲げている。ネームプレートの裏とスタッフルームの壁に掲示し、いつでも目の届くようにし周知。理念を意識してケアができるようにしている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りへ参加。 (よかつぱ祭り、ジプシーマーケット、暮れ市、大久保地区敬老会、大道芸)
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者家族を対象とした認知症の講習（認知症サポーター養成講座など）を開き、そこで学んだことをご近所など地域に住んでいる方に伝えていただく取り組みを行っている。
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、運営推進会議を実施（特養さくら館合同）施設の運営状況の報告、参加者との意見交換も合わせて行っている。利用者に対する、ケアのアドバイスまた、地域の様子等をお聞きして今後の役立てとして参考にしている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への依頼。高齢福祉課や介護保険課と積極的に連絡を取り、ホーム内で発生した事故報告（骨折等）困難事例の相談、地域における認知症の現状確認等を行っている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に月一回、法人全体で身体拘束廃止委員会を開き、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。今年度は、家族から車イスから落ちないようにベルトを使用してほしいと、身体拘束を希望される相談がある。家族に身体拘束が及ぼす影響を十分に説明、他職種協議により、身体拘束をしないケアで現在に至っている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修の実施。基本的な事は研修で学び、日常のケアをしていく中で虐待になりえる言動等に注意し合っている。早期発見、早期対応を心がけている。心にゆとりが持てる環境づくりに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	制度を利用している入居者が1名いるので、その方の情報をもとに制度の仕組みについて学ぶ機会を設けている。随時、検討しているが今現在、該当する方はなし。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、退居時書類をもとにその都度、入居者、家族等に専門的な言葉は使わないで説明している。その他、改定等必要書類をもとに説明・同意を得るようにしている。説明の合い間に不明なところを尋ね、一つ一つ不安や疑問点が解決できるように努めている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、顧客満足度調査のアンケートを家族へ配布、玄関前に意見箱を設置し意見・要望の確認、対応を行っている。その他にも、個別で家族等と面談を行う機会をつくっている。会議、申し送りノートを活用しスタッフで周知できるようにしている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度（年末）、代表者や管理者参加の職員面談を実施している。その他にも随時、職員と積極的にコミュニケーションを取り、話しやすい・相談しやすい環境づくりに努めている（ユニットリーダーからの情報収集も含む）
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人において就業規則や職員給与規定を整備している。法人内で定める交代制勤務職員時間区分表を活用し、ユニットの状況に合わせた勤務づくりを行っている。また、定期健康診断の実施など、労働環境に努めている。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量に応じ、OJTやOFF-JT等、法人内外の研修の受講機会の確保に努めている。法人内では年間の研修スケジュールに沿って実施、外部では団体や法人が主催している研修（接遇、認知症研修など）への参加を行っている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	認知症研修、また市で企画している研修、事業者懇談会へ参加し情報交換を行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実調段階で、十分な聞き取りを行い、環境が変わっても落ち着いた生活を送っていただけるように努めている。アセスメント表を活用し、本人が伝えにくいところまで目が向けられるように気を配っている。本人以外にも家族や近親者等からの聞き取りも行っている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実調時、可能な範囲で家族の立ち合いを依頼。直接お会いし家族等の思いを確認している。立ち合いが難しい方に関しては、電話連絡で確認するなどしていい関係づくりができるように努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントを十分に行い支援の見極めを行っている。施設入居であるため限られたサービスにはなってしまうが、本人が必要としている支援が見出せるように努めている。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の理念でもあるように「共に支え合う」を常日頃から意識して生活を共にしている。施設ではなく、家庭の延長であることを確認し合い、入居者を支えられるようにしている。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前、入居時の契約時、家族の在り方を説明し理解していただけるように努めている。中にはホームに任せっきりという家族もいるので、電話で現状報告をし、本人・ホームとの関係が途切れないようにしている。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の今までの暮らしの状況を把握し、職員で支援できないことは、家族の力も借りながら、馴染みの関係を継続できるように支援に努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活している中で利用者同士の相性を十分観察し、関わり、支え合えができるように努めている。また、トラブルによって双方が不快な思いを感じないように席の位置には気を配り、未然に防いでいる。一人ひとりの役割づくりも大切にしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援までとはいかないが、サービスを終了された方との関係性を継続している。施設で最期を迎えた方に関しては、葬儀へ参列させていただいている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意向だけを本人に確認しても、本当に望まれていることを聞くことができないので、生活の中で出てきた言葉や様子等から、希望・意向を引き出せるようなケアを心がけている（記録に残す）家族等からの話も参考にしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「生活歴」「暮らしの情報」の用紙を活用し、家族や本人に協力していただき、今までの暮らしの把握に努めている。また、今まで関わってきた、他職種からの聞き取りも行っている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活の様子をケース記録に残し、現状把握に努めている（パソコンのちょうじゅソフト内）小さな変化（バイタル、行動障害等）やいつもと違う言動が見られた際は、見た・聞いたことを記録にそのまま残すようにし、特に職員間で周知が必要と思うものには赤字で記録を残すようにしている。職員が感じたこと（客観的な思い）も合わせて残すようにしている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者に担当者を付け、3ヶ月に一回のモニタリング、6ヶ月に一回のアセスメントを行っている。アセスメントの月には担当者会議を開き担当者・本人・家族（可能な限り）の参加を促し今後のケアについて意見交換を行っている。当日の参加が難しければ事前に確認。いろいろなアイデアをプランに反映できるように努めている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の徹底を行い、職員各自で記録の確認、申し送りを活用して情報共有に努めている。また、各自でプラン内容が把握できるように徹底している（回覧にして、内容を確認したら捺印またはサイン）
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主にボランティアを活用し、サービスの多機能化に取り組んでいる。同一建物内にもクリニック、デイケア、病棟があるので、ニーズに対応できるように幅広く連携を取り合っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター・民生委員・ボランティア団体・保育園・小学校と協働している。個々に合った資源を活用し暮らしを支援している。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人および家族等に希望の確認をし、かかりつけ医への受診が継続できるようにしている。入居されているほとんどの方が1Fのクリニックを希望されている。認知症の専門医へ受診されている方が2名おり、ホーム内での生活の様子を記し受診時に家族にお渡ししている。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	4F特養の看護師と協働して、入居者の健康をサポートしている。随時、健康状態に変化があれば、報告、相談を行い、適切な指示・アドバイスを受けている。夜間急変時の際の、オンコール体制も確保できている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療機関との情報交換（紹介状、サマリー）や相談を電話または、入院先を訪問し、実調と情報提供していただいている。退院後にホームで生活が送れるように、医師をはじめ看護師等から適切な指示、アドバイス、今後必要になってくる観察のポイントを確認している。主に2Fの病棟へ入院が多いが、外部の医療機関に対しても同様の対応を行っている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前、契約時に看取り介護の指針について説明、同意を得ている。入居後については、健康状態に応じて（食事量低下、体重減少等）本人・家族等と話し合いの場を設けて、今後の意向の確認、ホーム内におけるケアの方向性を決定している。ホームでできるケアで同意をいただければ、最期に向けたケアを実施。本人にかかわる全ての職種で支援にあたり、随時カンファレンスを開いている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、「急変時、事故発生時の対応」についての内部研修を実施している。その他にも、入居者の病状に合わせた勉強会を開き、入居者が抱えるリスクについて十分理解をし急変時に備えている。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、避難訓練の実施。法人全体とグループホーム単独の訓練を行っている。新たに風水害のマニュアルを作成する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の訴えや話しを聞く際は、否定はせず傾聴し自尊心を高められるようにその方の得意なことを活かして、役割を持っていただけるように支援している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者から希望や要望の訴えがある際は、選択肢をいくつか準備し本人が自己決定できるように努めている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の入居者の状態に応じ、起床や食事の時間をずらす等の対応を行っている。個々のペースに合わせた支援を行っている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みを把握し、更衣の際など声かけや自ら選べるように支援している。個々の生活スタイルに合わせて、就寝前にパジャマに着替えてメリハリのある生活が送れるように支援している。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、「いただきます」のかけ声など、一人ひとりに得意なこと・役割を持っていただけるようしている。食器拭き等、入居者同士で協力しながら行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べにくそうな物等は細かく切る。毎食前に献立の説明を行い、出ている物がきちんと理解してもらえるようにサポートしている。主食のすすみが悪い時は海苔の佃煮やふりかけ、水分が少ない時は本人が好む飲み物を用意し負担にならない程度で摂取を促している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯みがきの声かけをし、状況に応じ側で見守り、介助、ジュスチャー等を入居者の力を引き出せるように努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用して時間を見ながら声かけ、誘導を行っている。車イスの入居者に対しては立位～ズボンの上げ下げ等見守り、一部介助し安全な空間作りをし、できなこいことにだけ職員が介助するように支援している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が入ったドリンクやヨーグルトを食事の中に取り入れるなどして下剤に頼らない便秘予防に取り組んでいる。散歩も取り入れ運動量の増加にも繋げている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりに合わせ湯加減の調整や浴室の温度調整等に配慮し、入浴前に本人に伺い意志を尊重している。1日1日入居者に入浴の有無を確認し個々に合わせた入浴の支援を行っている。拒否が続く方に対しては、時間帯をずらしたり職員を変える等して対応している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や様子を見ながら居室で静養を促し、本人が慣れ親しんだ物を枕元に置き安心できるような環境作りを行っている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常にチェックができるように薬のファイルを準備している。また、服用後の様子に変化がないか気を配り、変化時に記録に残す・申し送りできちんと情報を引き継ぎ、共有できるように努めている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の入居者は食事の準備に積極的に参加、男性の入居者は皆の中心になり号令等を行っている。レクでは昔から好きだったことカラオケを用意し皆で楽しむ、昔の楽しい思い出語り合い、笑顔を引き出せるように支援している。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	随時、外出行事の機会を作っている。外出先で食事を摂る際は、本人が好きな物を注文できるように支援している。家族の協力を得て、大子や笠間稲荷など普段行けない遠方に出かけられるように支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物に行った際等、職員の見守りでレジ会計を入居者にが行えるように支援している。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>年に一度、家族や友人等に年賀状を送っている。携帯電話を使用している入居者に対して、受話音量の調整等をし話やすい環境を作っている。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関前には行事の写真をホワイトボードに張り出す等して明るい雰囲気作りを行っている。廊下、談話コーナーではいつでもゆっくりできるようにイス・ソファを設置している。季節感を採り入れた飾りを入居者の目の位置に合わせた場所に飾り、季節感を感じていただけるようにしている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う入居者同士と一緒に過ごせるように、イスを並べたり等して過ごしやすい環境作りを行っている。場所によっては、一人の時間が作れるようにたくさんの物は置かずにリラックスできるように工夫している。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>可能な限り、ご自宅で使い慣れた家具や身の回りの物を持参していただき、本人や家族様で居室の配置や空間づくりをお願いしている。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>炊飯器、ポット等入居者の背の高さにあった台座を置き、使いやすいような工夫をしている。職員主体ではなく入居者が使いたい時にいつでも使えるように配置などに気を配っている。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが ○ 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない